

府立守口支援学校



テーマ：児童生徒自ら主体的にいきいきと活動できる授業づくり

概要

自己肯定感を高める授業づくりを体系化

守口支援学校では、「自己肯定感・授業力向上プロジェクト（通称：JJアッププロジェクト）」を平成29年度から全校で推進しています。これと連動して、初任者や2年経験者等が行う研究授業において、①いかに効率よく研究協議を進めることができるか（研究協議30分プログラム）と②「興味関心をもてること（魅力的観点）」を中心として授業を組み立て、指導案に反映させることに取り組みました。

実施

スケジュール

Research

6月中旬

担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

6月25日（月）

指導主事による授業見学

7月3日（火）

7月26日

全体会を開催（梅花女子大学伊丹教授：学校が招聘）

Plan

11月13日（火）

1月17日（木）

指導主事による授業見学・指導案検討

Do

2月1日

2月15日

研究授業・研究協議（1）

研究授業・研究協議（2）

Check & Act

2月下旬

アンケート集約

全体会

7月26日「実態把握から支援へ」

講師：梅花女子大学 伊丹昌一 教授（※学校が招聘）

【第1部】 実態把握の観点、方法、重要性（意義）などについて

【第2部】 具体的な活動について（グループワーク）

「研究協議30分プログラム」にむけた課題整理

教育センター支援教育推進室指導主事

研究授業

（1）

学年・教科： 小学部3年 「課題別学習」

単元名： 「おべんとうバス」

研究協議のポイント 「一人ひとりの評価規準を考える」

単元の目標を実現したと見て取れる子どもの姿を意識しながら、自立活動の目標と合わせて評価することについて協議しました。



研究授業

(2)

学年・教科： 小学部4年 「図画工作科」
 単元名： 「コラージュ版画をしよう」



研究協議のポイント 「児童の座席配置と教員のポジショニング」
 子どもの学びを引き出す大切な要素である、課題の調整や、提示の方法、教員の位置について協議しました。

成果

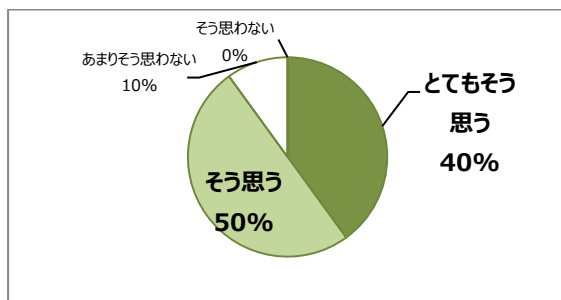
年間を通じて定期的に連携することで、小学部～高等部まで幅広く取り組むことができました。訪問が叶わない場合は、研究協議をどのように展開しているのかがわかるように、学校の報告や記録から、研究協議に参加していないとき会のイメージや、今後の改善に向けた取組みについても共有することができました。

初任者研修・インターミディエイトセミナー対象者が多く、今後も時間の確保が難しくなる中、「限られた時間を有効活用し、最大限の成果を得る」という方向で研究を積み重ねてきたことから、非常にスリムであり、かつ内容のある研究協議が実施されています。

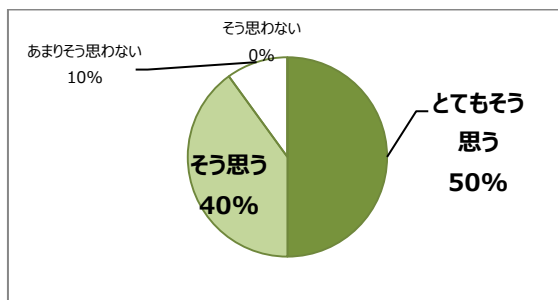
次年度以降も、今年度の取組みを活かした研究協議を展開し、より一層の充実が期待されます。

アンケート結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- 研究協議のそれぞれの押さえるべきポイントを明確にすること、短い時間で、より有効な研究協議の運営を進める項目、内容について適切なアドバイスをいただきありがとうございました。
- 指導案に自立活動の観点を記入することをアドバイスいただき、考えなおすキッカケになりました。また、日頃の授業でもサブ教員と共有しながら行っています。
- 授業に対してや、T2、T3などの生徒に対しての働きかけの方法を客観的な視点でアドバイスをいただいた事で、とても勉強になりました。